

1. 育成のねらい

近年、チューリップ球根産地では地球温暖化の影響等から土壌伝染性病害の増加が懸念されているとともに、需要にあわせた多様な花色・花容・草姿等のバリエーション拡充が求められている。そこで、土壌伝染性病害に抵抗性を有する近縁野生種を用いた種間交雑から、土壌伝染性病害に抵抗性を持ち、嗜好性の高いユリ咲きの桃色系品種を育成する。

2. 育成経過

平成13年：交配

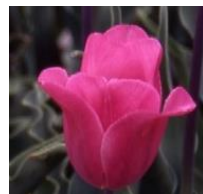
平成18年：初開花、初選抜

平成27～29年：系統特性検定試験
系統名付与「砺波育成145号」

平成30～令和2年：特性検定試験

令和3年：品種登録出願

♀ 春乙女 × ♂ *T.eichleri* Maxima



416粒



1系統



「砺波育成145号」



「春のワルツ」



3. 品種の特徴

- ・人気の高い桃色のユリ咲き(中生種)
- ・土壌伝染性病害に対する抵抗性が強い

(露地開花特性)

- ・露地開花期は4月下旬で、花の観賞期間は13日程度
- ・露地での鑑賞期間が長く、花壇植えに適している

(球根収量性)

- ・球根収穫期は6月中旬
- 主球の肥大は「小」、分球性は「中」、
- 収穫量は「中」、ほ場裂皮の発生率は5%未満

(耐病性)

- ・土壌伝染性病害抵抗性は、
- 微斑モザイク病「強」、条斑病「強」、
- 球根腐敗病「強」

(促成適応性)

- ・1～2月の切り花出荷には適さない



4. 販売までの経路

令和3年から県内生産者のほ場で原種増殖が開始され、令和5年に県球根組合を通じて生産者へ原種供給、令和6年収穫の球根より販売を開始